藤屋 侃士
(下松市幸ケ丘)

放射能汚染
～福島原発汚染視察②～

東日本大震災の被災地、岩手県大槌町で見た、津波によって建物がなくなり、土台のコンクリートと曲がりくねった鉄骨だけが残された風景は衝撃的で、今も忘れられない。

東日本大震災では岩手、宮城、福島の三県が甚大な被害を受けた。このうち岩手、宮城は地震と津波による被害である。今回訪れた福島はそれに加えて原子力発電所の爆発による放射能汚染。放射能は目に見えない。津波などの目に見える災害とは異なる被害にショックを受ける。

福島も地震と津波の被害を受けた。五年半過ぎた今も深刻な事態が続いているのは放射能汚染によるものである。まるで時が止まったかのように震災前の建物が建っている。しかし、そこは今も人が住めないゴーストタウンである。

放射線の知識がないのでよくわからないが、人間は世界中どこに住んでいても自然放射線を浴びているという。放射性物質を扱う人がどの程度放射線を受けたかを調べる単位がシーベルト。自然な放射線で我々も年平均二・四ミリシーベルトの放射線を浴びている。レントゲン検査は放射線によるものだが、一回に〇・五ミリシーベルトぐらい被曝（ばく）するらしい。

とにかく短期間に大量の放射線を浴びれば死に至る。福島でよく目にする「帰還困難区域」とは、放射線量が五十ミリシーベルトを超える所、「居住制限区域」は二十ミリシーベルトを超え、五十ミリシーベルト以下、「避難指示解除準備区域」は二十ミリシーベルト以下の汚染区域のことである。

今も人が住めない富岡町商店街

5年半過ぎた今も出入り禁止

人は避難したままだが、日中は立ち入りが許されている所を貸し切りバスで走る。道路の向こうに「帰還困難区域」を示すバリケードがあり、それから先は通行できない。道路を挟んで汚染区域が別になる。大丈夫なのだろうか。

国も五年半もの間、放置していたわけではない。「居住制限区域」と「避難指示解除準備区域」を中心に懸命の除染作業をしている。今回も「除染作業中」というのぼり旗をあちこちで見かけた。その道路脇には黒いビニール袋がある。除染作業で集められた汚染廃棄物を入れたものだ。

少し郊外に出ると、車窓から五段ぐらいに山積みされたトン袋が各地にある。よく見るとその向こうに緑のビニールカバーで覆われたものがある。長い間放置され、ビニールのトン袋が破れたものもあり、それを分厚いビニールシートで覆っているのだ。

雨が降ると雨水で被曝物が集められ、ホットスポットと呼ばれる放射線量が異常に高い所があるとか。除染作業が終わっても、今後は除染廃棄物の保管、分別処理施設が必要になると言われると、ため息しか出なかった。

放射線汚染廃棄物を入れたトン袋＝ビニールシートで覆われた所もある